資料４

利尻島観光及び利尻山登山の特徴

利尻島観光の特徴

- ◆ 年間観光入込客数は約 20 万人。観光入込客数、宿泊客数とも減少傾向。宿泊客数はピーク時の約 56%にまで減少。全道的には、観光入込客数は横ばい。
- ◆ 極端な夏季集中型。全道的には、冬季観光の割合も多い。
- ◆ エージェントを中心としたツアー客が減少し、中高年（団塊世代）を中心とした個人型旅行へと変化。
- ◆ 利尻山を中心とした自然・景観を目的とする観光客が圧倒的多数。
- ◆ 全道、全国的に目的型、選択型、着地型商品の開発の必要性が示唆されている中で、体験型観光のニーズが高まっている。
- ◆ 利尻島でも「登山」のほか「ハイキング」「トレッキング」などの能動的体験に対する観光客のニーズがある。現在はポン山や姫沼等でのトレッキング等が若干行われている程度。

現在も続いている世界的な金融危機がどのような影響を及ぼすか。北海道観光においては、節約ムードの高まりですでに道外からの観光客は減っている、ともいわれている。

利尻山登山の特徴

- ◆ 登山者数は約 1 万人で利尻島観光入込総数の約 5%を占め、その多くは登山前後に宿泊（2 泊）していると考えられる。
- ◆ 利尻山登山者は、観光入込客数・宿泊客数とも減少している利尻島観光にとって、大きく数が増減せず、宿泊も見込める安定した観光客層とも言える。
- ◆ 特定の時期（6 月下旬～7 月）、時間帯・場所（10:00 頃の合流点～山頂付近）、コース（鴛泊コースの利用が約 90%）について登山者が集中。
- ◆ 6 月中旬から 7 月初旬にかけてツアー登山が多い。ツアー登山者は 1,200～1,500 人、全登山者の 10～15%程度を占めていると推定される。
- ◆ 登山者が利尻山を訪れる目的のキーワードは「景色」「百名山」「花」。
- ◆ 利尻山でみられる登山道の浸食、特定時期・箇所への利用の集中、登山者のマナー、山岳遭難などの問題は他の山岳地でも大なり小なり見られる。

目　　次

１　利尻島観光の現状 3
１－１　利尻島全体の観光入込客数の推移 5
１－２　観光客層からみた利尻島の観光入込の特性 6
日帰り客・宿泊客別 6
利尻町・利尻富士町の宿泊客数 7
外国人観光客数 8
１－３　定期観光バスの運行状況 9
１－４　北海道観光の現状 10
観光入込客数 10
訪日外国人来道者数 11
来道観光客の動態 12
北海道における観光とその経済効果 13

２　利尻山登山利用の現状 14
利尻山登山者数 14
登山コース別にみた特性 15
地点別登山者数 16
ツアー登山の状況 17
山岳遭難事故の状況 19

３　他山岳地の状況 20
羊蹄山 20
羅臼岳 21
屋久島主要山岳部 22

１．利尻島観光の現状

▼「平成 19 年度観光アンケート調査結果」（平成 20 年 1 月、利尻町観光協会）より

- 観光客の旅行形態は、エージェントを中心としたツアー客が減少し、中高年（団塊の世代）を中心とした個人型旅行へと変化してきている。
  ⇒旅行目的・内容・旅行先の多様化を受け、行程の制約が少なく自分のペースで個人の興味・関心を満たしやすい個人旅行という形態を選択しているものと考えられる。この背景にはインターネットの進展により観光地に関する情報を収集しやすくなったこと、航空会社・宿泊施設等の予約が容易になったことなどが挙げられる。
- 利尻島観光客は初めて利尻島を訪れるという人が多い。
- 観光客のうち 8 割近くの人が再度利尻島を訪れたいという意向を抱いている。これは時間的に余裕のない旅行日程も関係しているようである。
- 利尻島を訪れる観光客の旅行日程は 2 泊 3 日が多く、そのうち利尻島での宿泊は 1 泊が主である。
- 利尻島を訪れた理由として、自然、風景が圧倒的に多く、次いで食べ物が挙げられている。
- 利尻島を観光してよかった場所に、利尻山のほか多くの人が姫沼、オタドマリ沼をあげている。いずれも自然資源であり、利尻島の観光は天候に左右されやすいことを意味し、悪天候を不満理由とする観光客も少なくない。
- 利尻島で体験したいこととして、「登山」、「ハイキング」、「トレッキング」などの能動的体験があげられている。
- 利尻島でのお土産等購入額は 1 人あたり平均 8,000 円程度。飲食店・喫茶店での利用額は多くの人が 1,000 円以上で、5,000 円以上消費した人が最も多く、次いで 1～3,000 円の人が多い。
- 旅行費用や宿泊費が高いと感じる観光客も少なくなく、個人客には旅費の負担が大きいことが、敬遠される要因ともなっている。

▼「利尻富士町新まちづくり総合計画　SINCE2008-2017」（利尻富士町）より

- 国際ホテル整備法登録など外国人観光客に対応できる宿泊施設の整備が行われている。
- 北海道や国と連携を図り登山道及び、観光公園施設の整備が進められている。
- インターネットなどによる観光情報の発信を行っているほか、宗谷管内の市町村の連携による観光誘致活動や利礼三町合同パンフレットの作成など広域的な連携による情報発信の取り組みが進められている。
- 関係機関が連携を図りながら、地元の食材である「ウニ」「コンブ」「ヒラメ」等を食の目玉として提供したり、サケ釣りやサケ稚魚放流体験など地元の特性を活かした体験も行われている。
- 漁協施設にツアーが立ち寄るケースも出てきている。
- 今後の利尻島観光において、次のような点が課題としてあげられている。
  ・通年観光を目指し、温泉利用も含めた冬季観光の開発の推進
  ・観光客が求める食材の提供に向けた漁業者との連携
  ・観光客への接客など資質の向上
  ・滞在型観光の推進に向けた新たな資源の開発と受け入れ態勢の検討

・既存観光施設の利用者増加方策の検討や老朽化に対応した計画的更新
・外国人観光客に対応できる宿泊施設としての整備

▼「平成 19 年度来道観光客動態（満足度）調査」（平成 20 年 3 月、北海道観光のくにづくり推進局）より

- 訪問地の満足率において、利尻・礼文の満足率は 54.5%で、道内の観光地の中でも上位にある。

- 利尻山以外にも時間をかけて楽しむ・体験することができる／でき得る資源について情報提供や活用が行われておらず、認知度が島内も含めて低い。
- 沓形港は「飛鳥」「ふじ丸」など大型周遊客船の寄港地として定着しつつある。

１－１．利尻島全体の観光入込客数の推移

- 利尻島の観光入込総数は年間約 20 万人である。
- 平成 15 年度以降、観光入込総数は減少傾向にある。
- 観光入込は夏季に集中している（約 15 万人：年間入込総数の約 78%）。

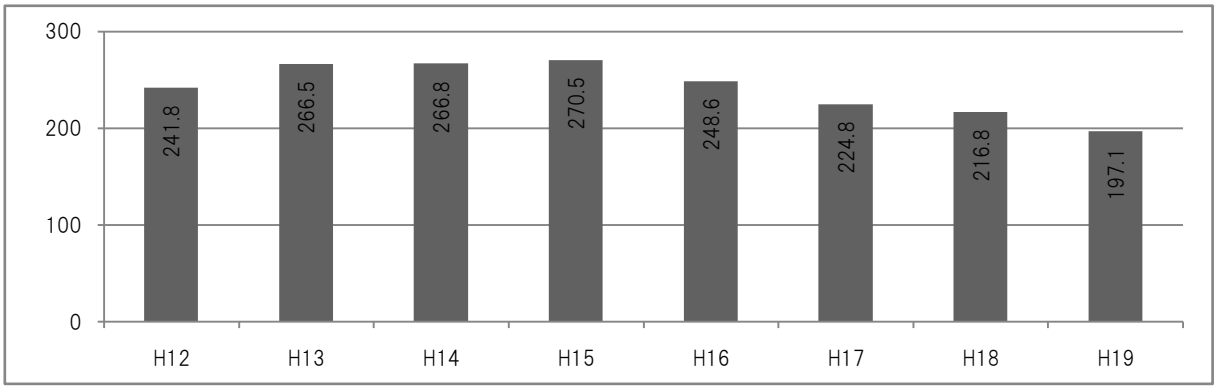

図　利尻島全体の観光入込総数の推移（単位：千人）

※北海道観光入込客数調査報告書より

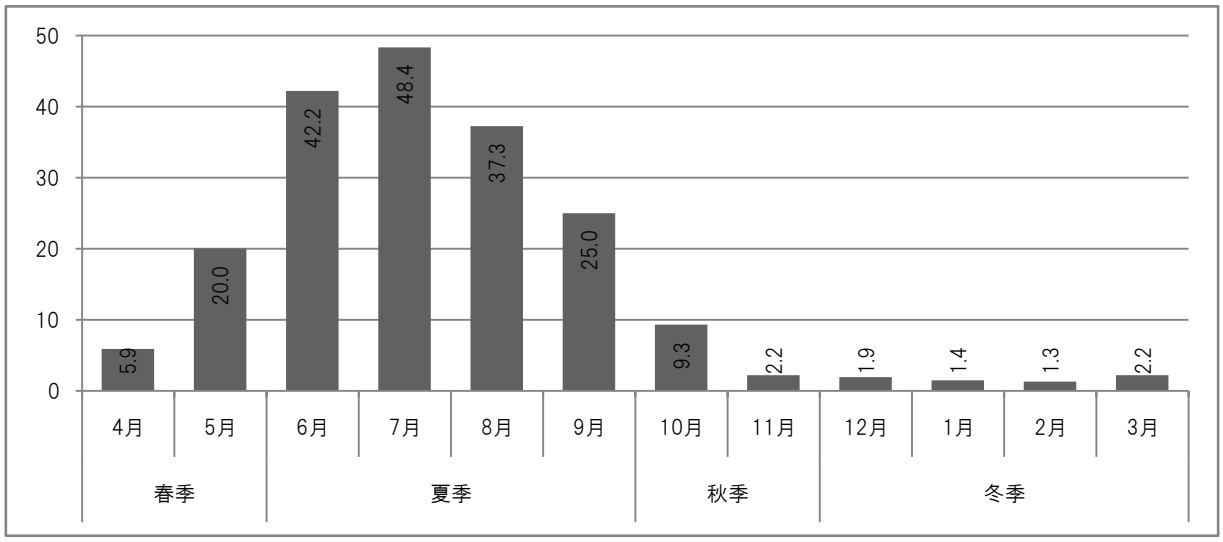

図　月別観光入込客（平成 19 年度）（単位：千人）

※北海道観光入込客数調査報告書より

現在、日本の観光目標数値というのはほとんどが人数だけです。訪日外国人旅行者数も目標が 1000 万人と人数を軸に考えられていますが、本来、観光で重要な数字は、「宿泊者数」と「リピート率」だと思います。さらに、どれだけの消費をしたのかと、その波及効果、そして、あらゆる観光の満足度の調査をせめて 5 段階評価で調べることができれば、今後の観光施策には非常に参考になると思います。（観光カリスマ・山田桂一郎氏　談）　http://www.yamatogokoro.jp/report/2008/04/post-2.html

１－２．観光客層からみた利尻島の観光入込の特性

▼日帰り客・宿泊客別

- 宿泊客数に強い減少傾向がみられる一方、日帰り客数は平成 16 年度まで増加したのち、ほぼ横ばいである。
- 宿泊客数はピーク時の約 56%まで減少（平成 13 年度：約 20 万人→平成 19 年度：約 11 万人）。
- 観光入込客の半数以上が宿泊客であるが、年々その比率は低下している。
- ピークを迎える夏季から秋季にかけて宿泊客の比率は 50%を超え、6 月、7 月には 60%を超える。これは道外客の入込が多くなる時期と重なる。
- 春季及び冬季の宿泊客の比率はおおむね 40%前後である。

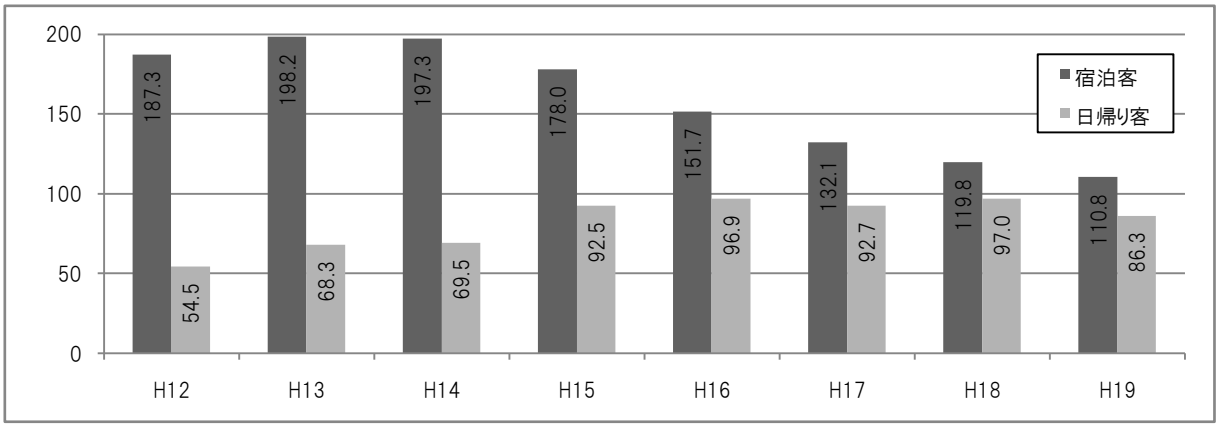

図　日帰り客・宿泊客別にみた観光入込総数の推移（単位：千人）

※北海道観光入込客数調査報告書より

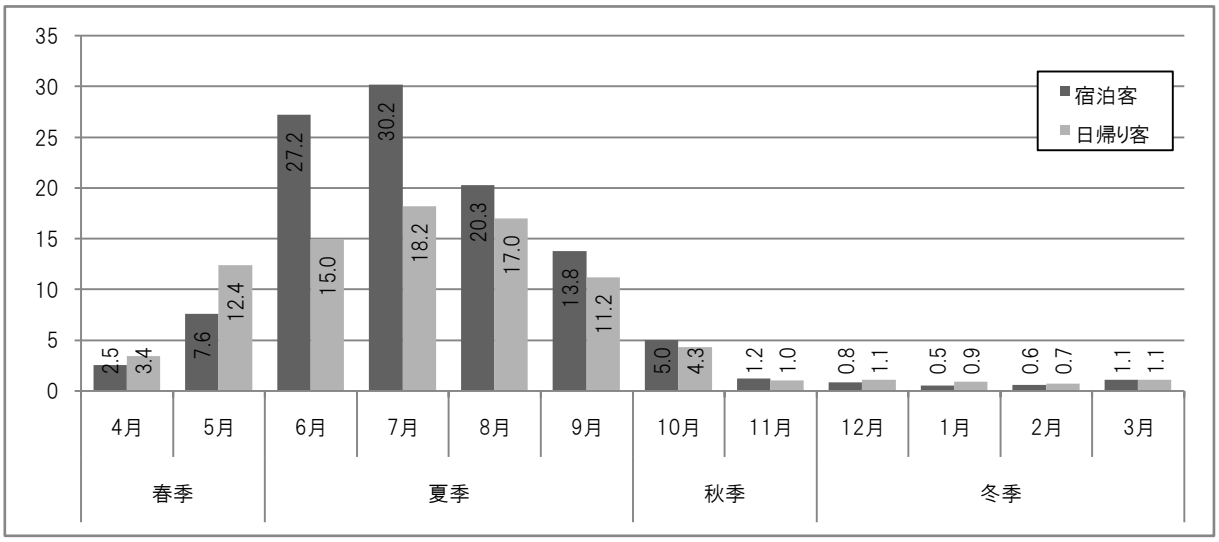

図　日帰り客宿泊客別にみた月別観光入込客数（平成 19 年度）（単位：千人）

※北海道観光入込客数調査報告書より

▼利尻町・利尻富士町の宿泊客数

- 観光入込総数の減少に伴い、利尻町・利尻富士町両町とも宿泊客数が減少している。
- 利尻町と利尻富士町を比較すると、ピークの時期（夏季）は変わらないが、その宿泊客数に開きがある。この差が両町の年間の宿泊者総数の差となっている。

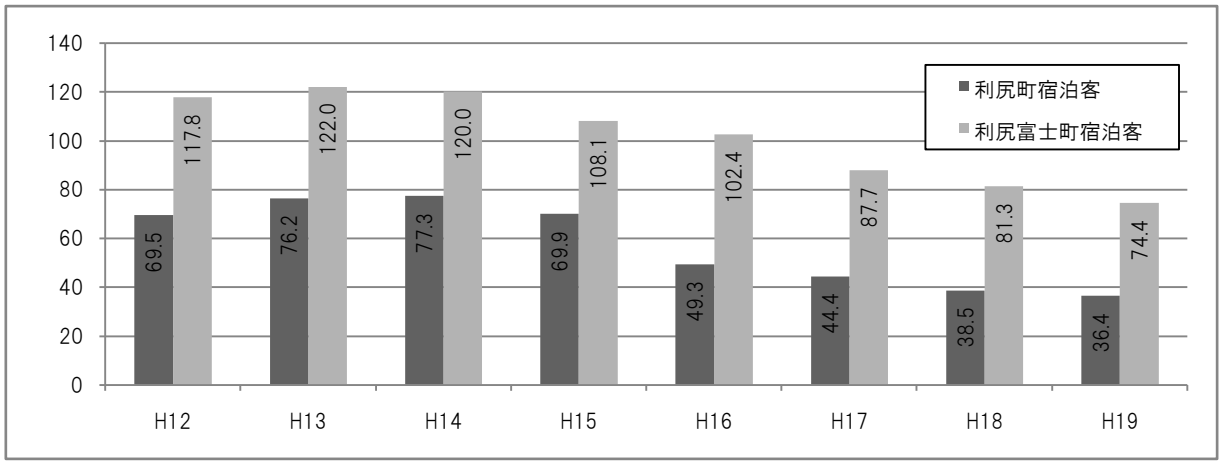

図　町別にみた宿泊客数の推移（単位：千人）

※北海道観光入込客数調査報告書より

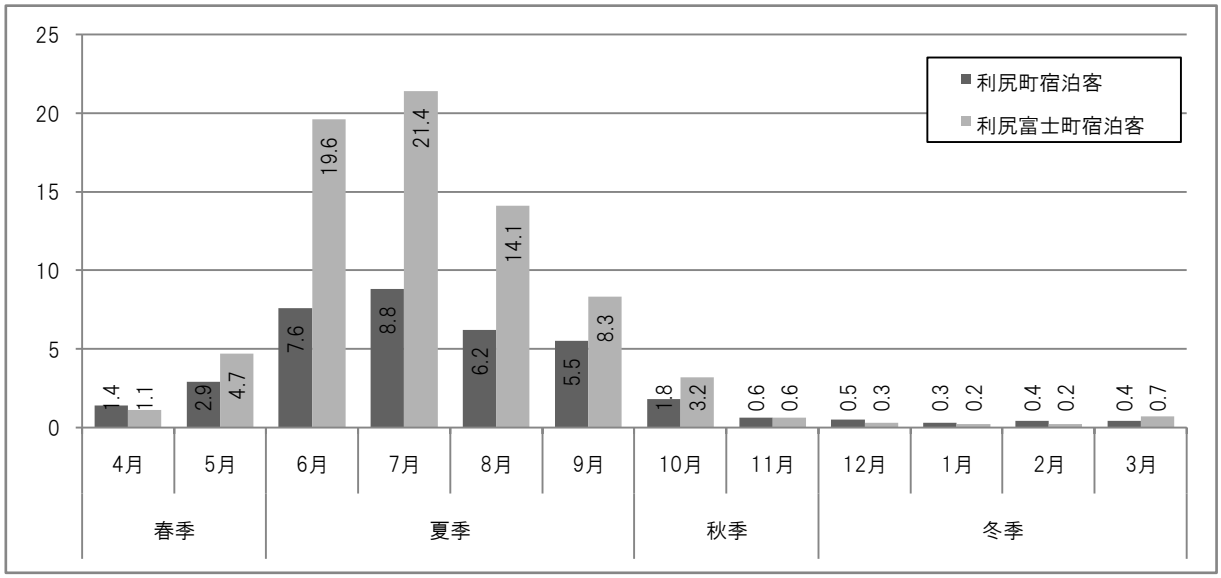

図　町別にみた月別宿泊客数（平成 19 年度）（単位：千人）

※北海道観光入込客数調査報告書より

▼外国人観光客数

- 利尻島を訪れる外国人観光客数は、東アジアを中心に年々増加傾向にある。
- 6 月、7 月を中心に夏季に多くの外国人観光客が訪れる。
- アジアからの観光客が半数以上を占め、中でも台湾からの観光客が多い。

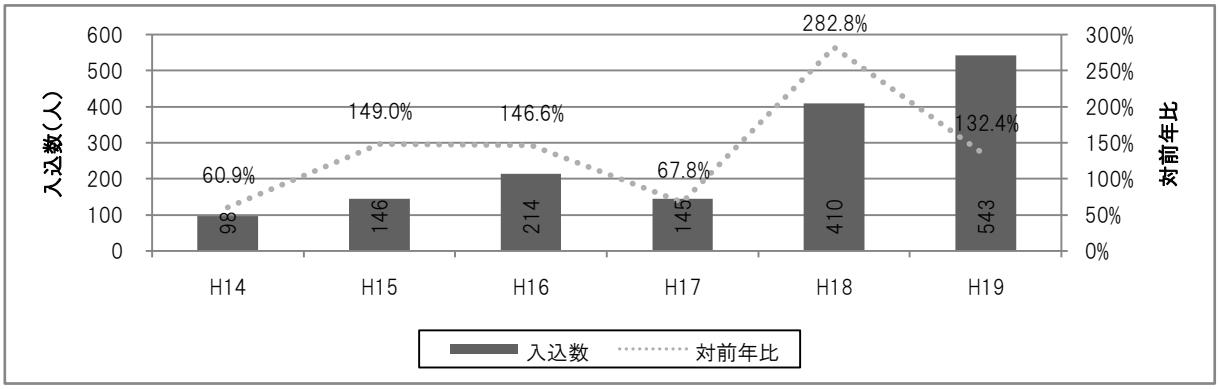

図　外国人観光客数の推移

※北海道観光入込客数調査報告書より

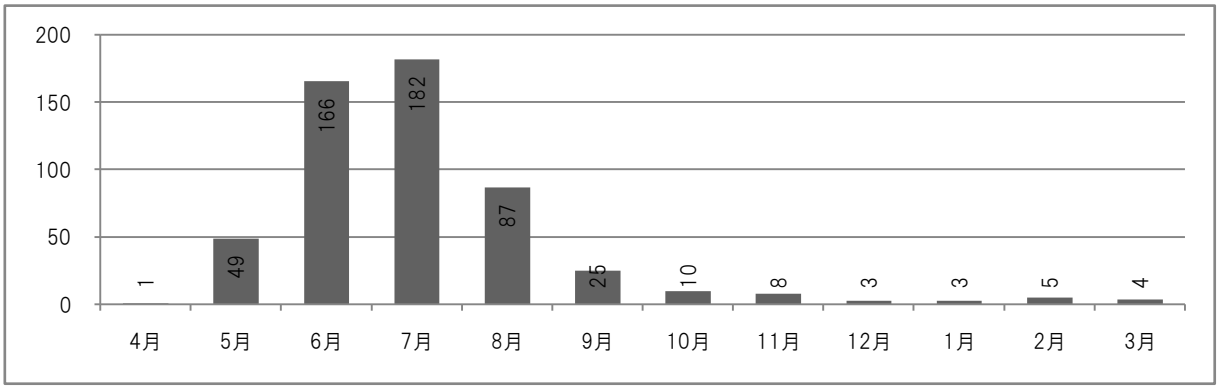

図　月別外国人観光客数(平成 19 年度)(単位:人)

※北海道観光入込客数調査報告書より

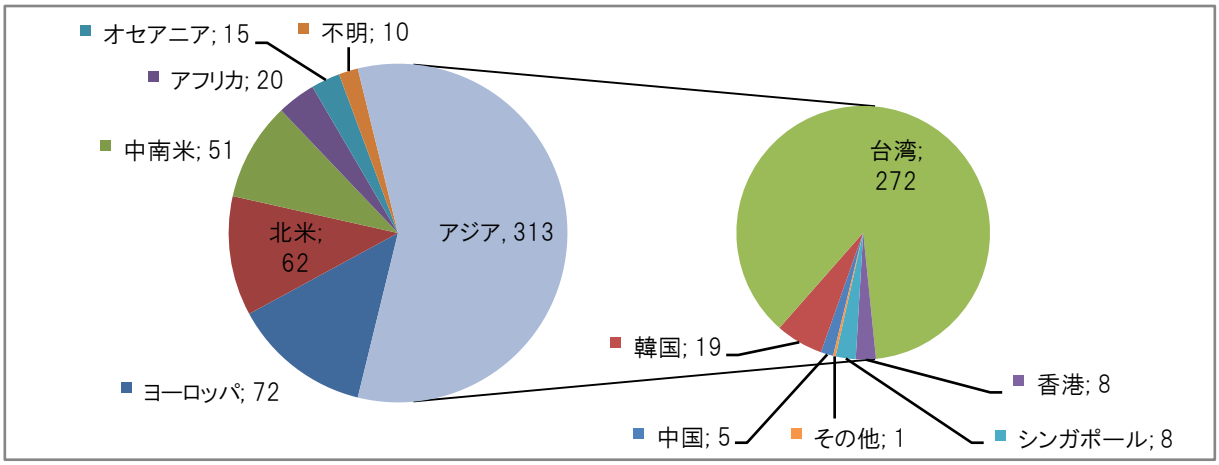

図　外国人観光客数の内訳(平成 19 年度)(単位:人)

※北海道観光入込客数調査報告書より

１－３．定期観光バスの運行状況

- 4 月末から 10 月中旬にかけて、利尻島内では定期観光バスが運行されている。
- 3 つのコース設定されている。それぞれ所要時間が異なるものの、いずれも半日程度で島内を一周するコースで、立ち寄る地点はほぼ同じである。立ち寄り地点 1 地点あたりで消費する時間はさほど長くない。

表　利尻島の定期観光バス運行状況（平成 20 年）

コース名	料　金	4 月 27 日～30 日	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月 1 日～13 日
利尻A 秀峰利尻富士めぐり 3 時間 5 分	大人 3,300 円 小児 1,900 円	9:40 発 ▼ 12:45 着	9:40 発 ▼ 12:45 着	9:40 発 ▼ 12:45 着	9:40 発 ▼ 12:45 着	9:40 発 ▼ 12:45 着	9:40 発 ▼ 12:45 着	9:40 発 ▼ 13:05 着
利尻B 利尻スポットめぐり 2 時間 30 分	大人 2,800 円 小児 1,500 円		14:35 発 ▼ 16:55 着	14:35 発 ▼ 16:55 着	14:35 発 ▼ 16:55 着	14:35 発 ▼ 16:55 着	14:35 発 ▼ 16:55 着	
利尻C 大自然利尻めぐり 4 時間	大人 3,400 円 小児 2,000 円			8:20 発 ▼ 12:20 着	8:20 発 ▼ 12:20 着	8:20 発 ▼ 12:20 着	8:20 発 ▼ 12:20 着	

※宗谷バス株式会社ホームページ(http://www.soyabus.co.jp/)より

表　利尻島の定期観光バスのコース内容（平成 20 年）

コース名	コース内容
利尻A	(4/29～9/30) 鴛泊フェリーターミナル～姫沼～オタドマリ沼～仙法志御崎公園～博物館～人面岩．寝熊の岩(車窓)～鴛泊フェリーターミナル (10/1～10/13) 鴛泊フェリーターミナル～姫沼～野塚展望台(車窓)～資料館～オタドマリ沼～仙法志御崎公園～人面岩．寝熊の岩(車窓) ～沓形岬公園～鴛泊フェリーターミナル （沓形【乗車可】8:55 発）
利尻B	鴛泊フェリーターミナル～野塚展望台(車窓)～オタドマリ沼～仙法志御崎公園～人面岩．寝熊の岩(車窓)～鴛泊フェリーターミナル
利尻C	鴛泊フェリーターミナル～姫沼～野塚展望台(車窓)～資料館～オタドマリ沼～仙法志御崎公園～人面岩．寝熊の岩(車窓) ～沓形岬公園又は海底探勝船遊覧～鴛泊フェリーターミナル （沓形【乗車可】7:35 発）（沓形フェリーターミナル【途中下車可】11:30 着） （海底探勝船遊覧【運休日:7/24.29.8/30.9/1～30】）

※宗谷バス株式会社ホームページ(http://www.soyabus.co.jp/)より

１－４．北海道観光の現状

▼観光入込客数　　※「北海道観光入込客数調査　平成 19 年度」（北海道経済部観光のくにづくり推進局）より

- 平成 19 年度の観光入込客数の総数（実人数）は 4,958 万人で、前年の 4,909 万人から若干増加した。洞爺湖サミット開催決定の効果、旭山動物園人気の継続、東アジアを中心とした海外からの来道者が引き続き増加したことによる。
- 平成 19 年度は前年に比べ道外客が減少、道内客が増加。構成比は道外客 13.1%、道内客 86.9%。平成 14 年以降でみると、道外客・道内客とも大きな増減はない。
- 平成 19 年度は前年に比べ日帰り客が増加、宿泊客が減少。構成比は日帰り客 71.3%、宿泊客 28.7%。宿泊者の減少傾向はここ数年続いている。平成 14 年以降でみると、日帰り客・宿泊客とも大きな増減はない。
- 夏季の観光入込客数が約 2,500 万人でほぼ半数を占める。冬季の入込客数が増加傾向にある。

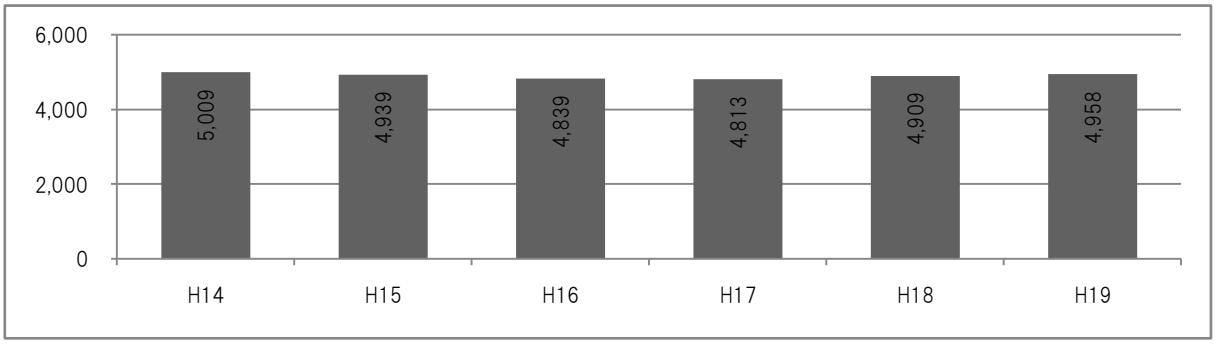

図　北海道の観光入込総数（実人数）の推移（単位：万人）

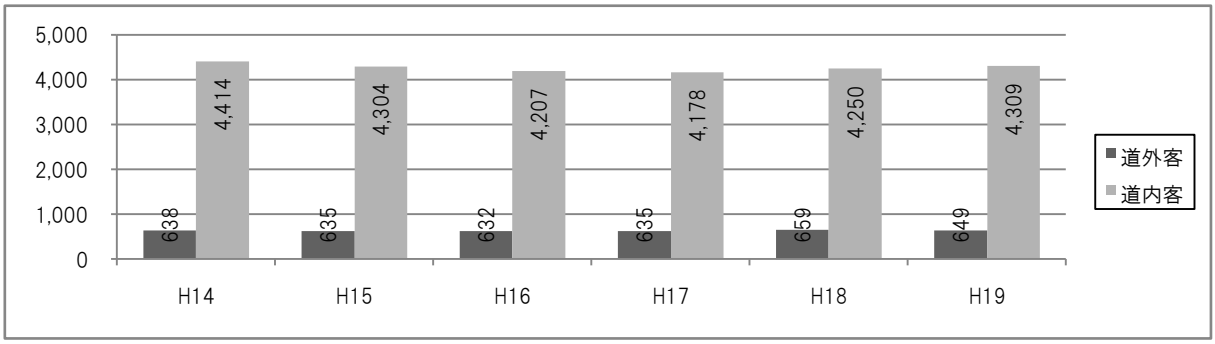

図　道内客・道外客別にみた観光入込総数（実人数）の推移（単位：万人）

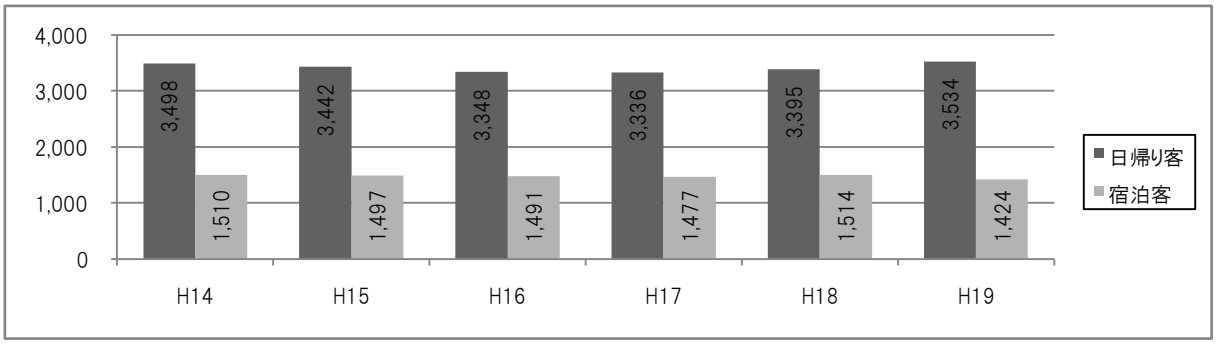

図　日帰り客・宿泊客別にみた観光入込総数（実人数）の推移（単位：万人）

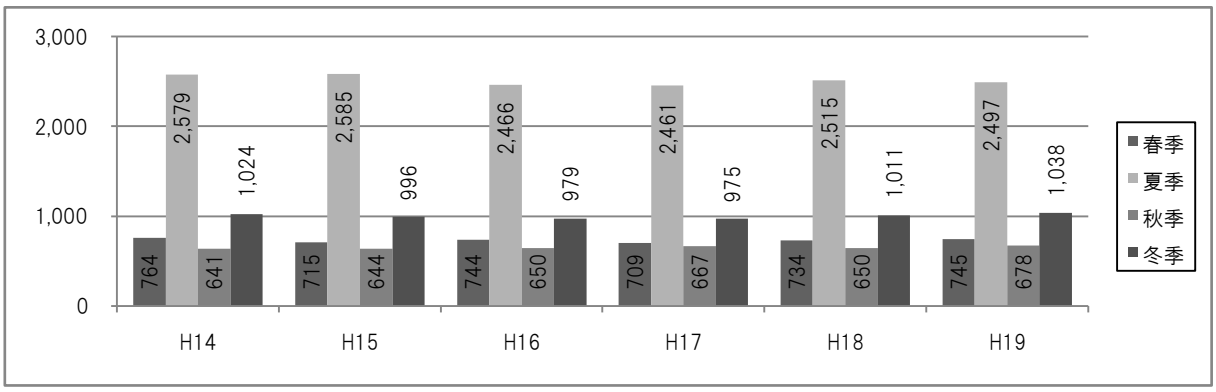

図　季節別にみた観光入込総数（実人数）の推移（単位：万人）

▼訪日外国人来道者数

※「北海道観光入込客数調査　平成 19 年度」（北海道経済部観光のくにづくり推進局）より

- 訪日外国人来道者数（実人数）は増加傾向にある。
- アジア地域からの来道者は引き続き増加傾向にある。中でもシンガポールや中国からの来道者が大幅に増加している。北海道へのスキー人気が高いオーストラリアからの来道者も引き続き増加している。
- 訪日外国人来道者数を国・地域別にみると、台湾、韓国、香港、シンガポールの順に多い。
- 訪日外国人来道者は、冬季（12 月～3 月）、夏季（6 月～9 月）に多い。

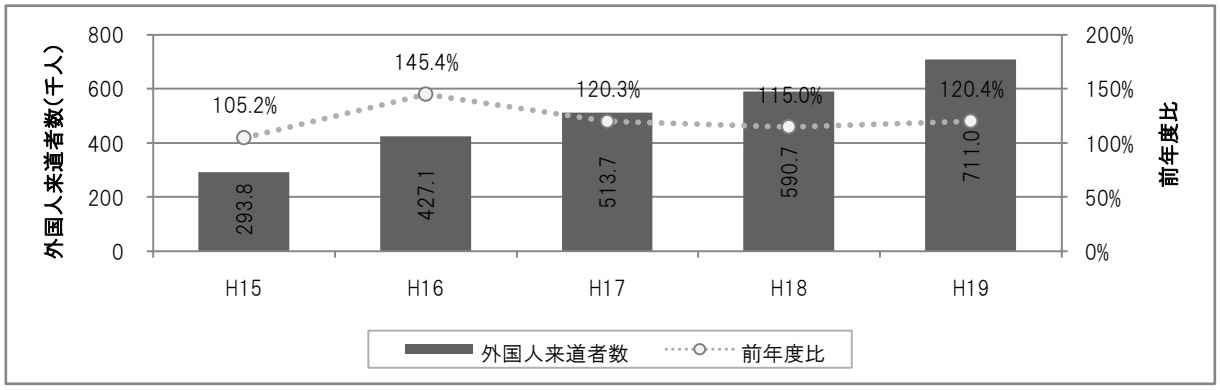

図　訪日外国人来道者数の推移

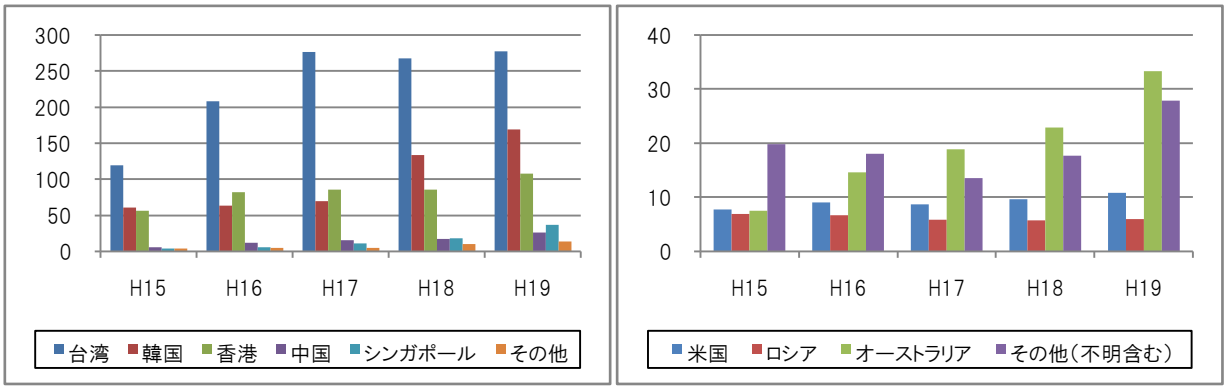

図　国別外国人来道者数の推移（単位：千人）

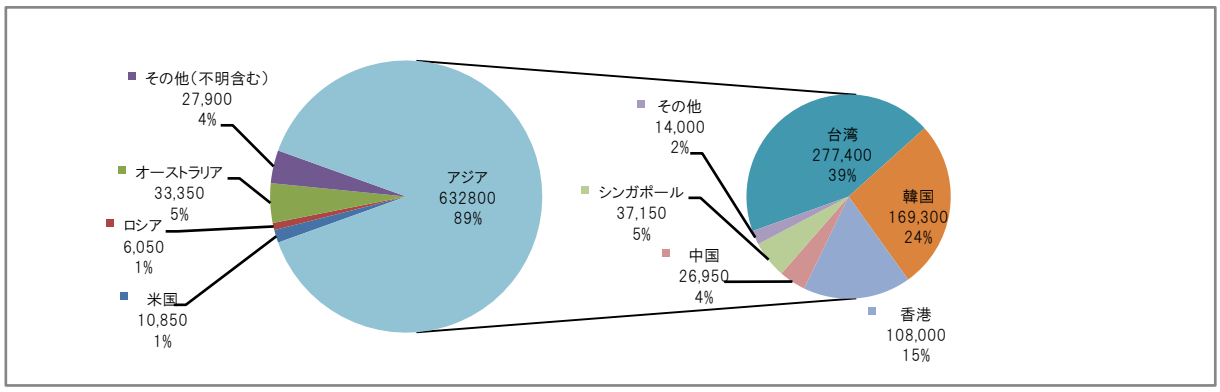

図　国別外国人来道者数の内訳(平成 19 年度)

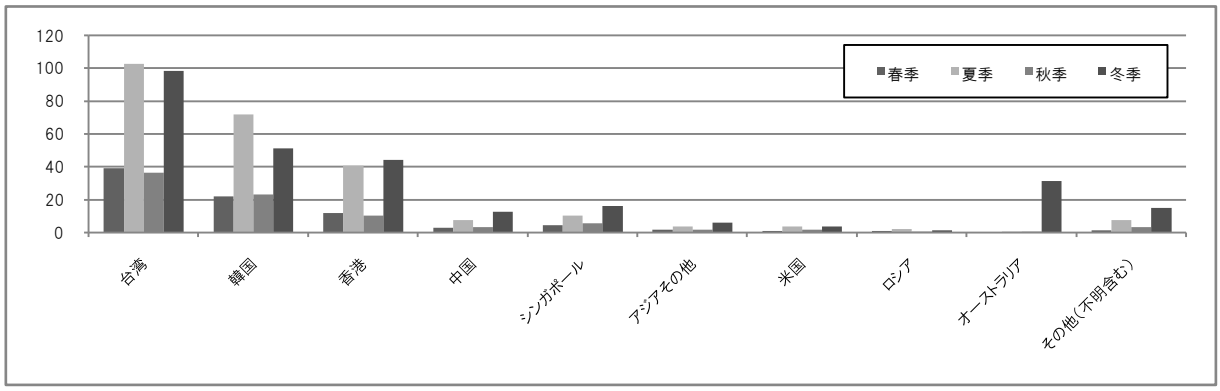

図　季節別・国別外国人来道者数(平成 19 年度)(単位:万人)

▼来道観光客の動態

※「平成 19 年度来道観光客動態（満足度）調査」（北海道経済部観光のくにづくり推進局）より

- 観光での北海道旅行の回数は、「初めて」の観光客が 20%弱である一方、「5 回目以上」が最も多く約 33%。
- 北海道観光の第 1 目的は、「自然観賞」や「都市見物」。
- 旅行日程は、2 泊～3 泊が主流である。
- 主な移動手段は、「観光バス」、「レンタカー」である。
- フリープランのパッケージツアーやパッケージツアーでないといった自由行動（個人旅行）が多い。
- パッケージツアー利用者の「パック料金」は平均 6.4 万円、「パック以外の消費額」は平均 2.9 万円。
- パッケージツアー以外の観光客の「道内消費額」は平均 6.2 万円、うち宿泊代が 2.4 万円。
- 来道観光客 1 人 1 日あたり道内消費額は平均 1.5 万円。

▼北海道における観光とその経済効果

※「第 4 回北海道観光産業経済効果調査」（平成 18 年 3 月北海道観光産業経済効果調査委員会）より

- 道民 1 世帯の 1 年間での観光消費額は平均 8,849 円（日帰り旅行での消費額は 10,000 円以下、宿泊を伴う旅行での消費額は 15,000 円以上）、道外客 1 人あたりの観光消費額は平均 60,667 円で、いずれも減少傾向にある。
- 北海道内での年間総観光消費額 1 兆 2,946 億円（道民世帯 7,666 億円、道外客 5,280 億円）と推計。
- 道民、道外客とも 1 回あたりの平均消費額は減少しているが、道民世帯の「日帰り行楽」を中心とした観光回数の増加により、総消費額は増加している。
- 道民及び道外客の観光消費によって引き起こされる生産波及効果は 1 兆 9,770 億円、生産活動に対応する個人や企業等の所得形成効果は 1 兆 1,419 億円と推計され、いずれも増加傾向にある。
- 観光消費による経済効果に相当する就業者数（観光客の需要に応じるための財・サービスの生産活動に就業する人の数）に換算すると約 15 万 9 千人。全道の就業者数 273 万人の 5.8%にあたる。

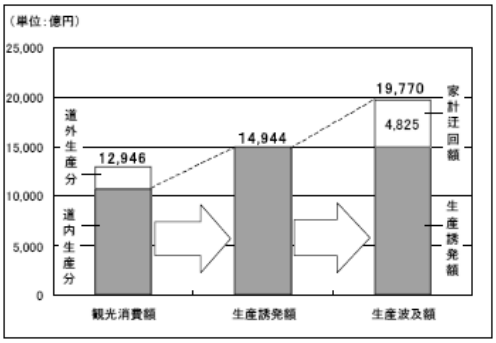

図　観光消費額と生産波及額

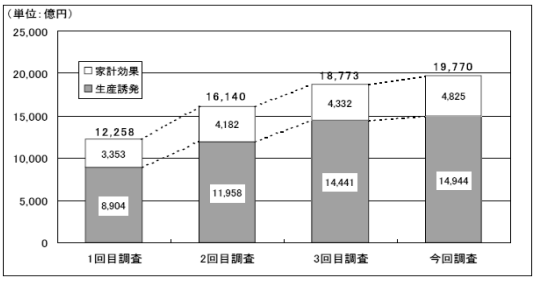

図　生産波及効果の推移

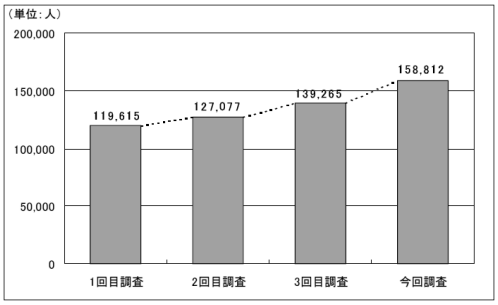

図　観光消費により形成された就業機会の推移

２．利尻山登山利用の現状

▼利尻山登山者数

- 利尻山登山者数は年間約 1 万人で、利尻島全体の観光入込総数の約 5%である。

※平成 20 年度の利尻山登山者数は 10,045 人。

- 観光入込総数が平成 15 年度以降続けて減少しているのに対し、登山者数は、平成 15 年度から平成 17 年度にかけて減少したのち、この 3 年間はほぼ横ばいとなっている。
- 平成 15 年以前の正確な数値はないが、最も混雑していた時期には登山者数が 2 万人を超えていたようである。
- 夏季に登山者が集中している（年間登山者数の 95%以上）。
- 利尻山登山者の多くは登山前後に宿泊（2 泊）していると考えられる。この場合、利尻島宿泊客数（約 11 万人）に占める登山者は約 20%となる。利尻山登山者は、観光入込客数・宿泊客数とも減少している利尻島観光にとって、大きく数が増減せずさらに宿泊も見込める安定した観光客層とも言える。

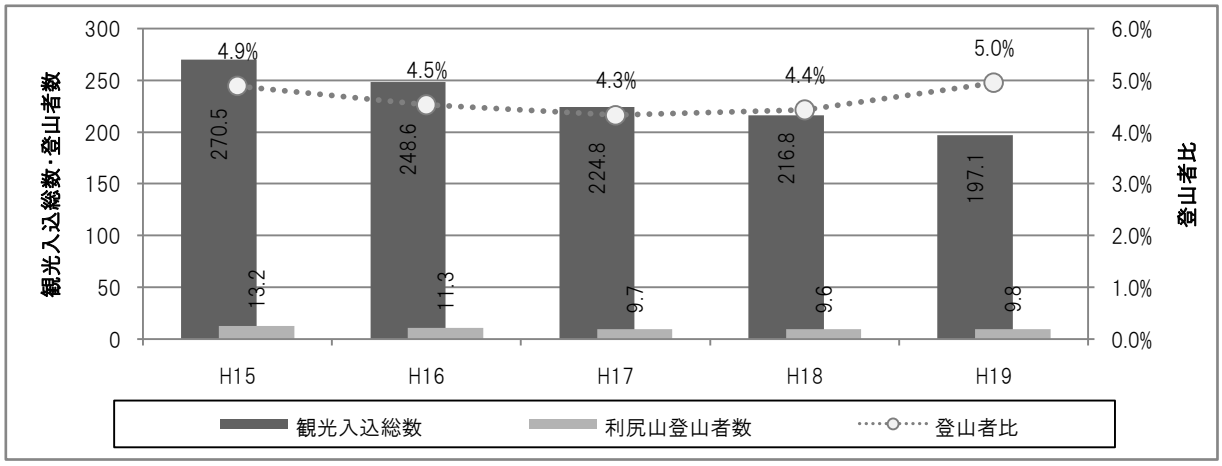

図　観光入込総数と利尻山登山者数の推移（単位：千人）

※登山者数は平成 19 年入山カウンターデータ及び登山計画書の情報より算出

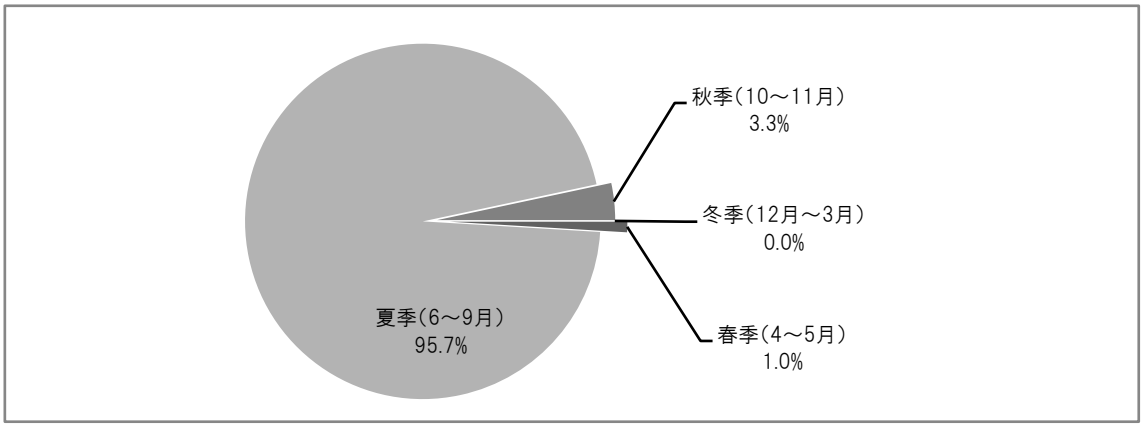

図　季節別にみた利尻山登山者数の比率（平成 19 年度）

※登山者数は平成 19 年入山カウンターデータ及び登山計画書の情報より算出

▼登山コース別にみた特性　　※　登山計画書（平成 19 年分）集計結果より

- 登山者のうち、鴛泊コースの利用が約 90%である。
- 沓形コースの利用者は、平成 15 年から平成 16 年で半数以下となり、その後も微減傾向にある。
- 登山者の性別をみると、鴛泊口では［男性：女性＝６：４］程度、沓形口では［男性：女性＝７：３］程度である。
- 鴛泊口では、6 月の 1 パーティあたり平均人数が大きい。団体登山の多さを反映したものと思われる。
- 1 パーティあたりの平均人数は沓形口の方が小さい。大人数のパーティの場合、沓形コースより危険度の低い鴛泊コースを選択しているものと考えられる。

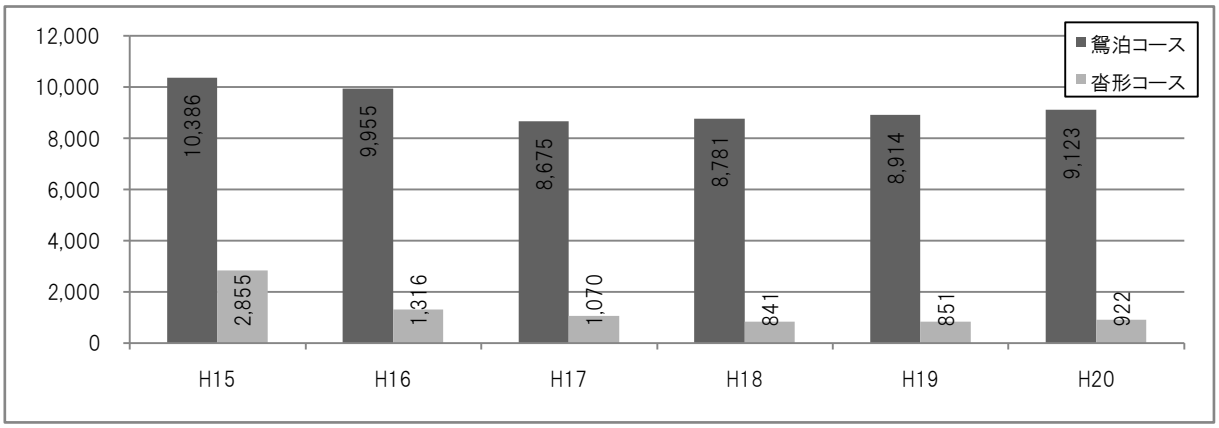

図　登山ルート別にみた利尻山登山者数の推移（単位：千人）

※登山者数は入山カウンターデータ及び登山計画書の情報より算出

表　登山口別にみた登山パーティ数・登山者数（平成 19 年度）

	鴛泊口					沓形口				
	パーティ数	登山者数			1 パーティあたり平均人数	パーティ数	登山者数			1 パーティあたり平均人数
		男	女	計			男	女	計	
1 月										
2 月										
3 月	1	1	0	1	1.00					
4 月	7	16	1	17	2.43	1	2	1	3	3.00
5 月	25	49	27	76	3.04	2	3	0	3	1.50
6 月	387	787	780	1,567	4.05	9	12	3	15	1.67
7 月	815	1,313	927	2,240	2.75	32	54	28	82	2.56
8 月	526	768	368	1,136	2.16	22	29	9	38	1.73
9 月	254	372	197	569	2.24	17	31	8	39	2.29
10 月	18	31	2	33	1.83	5	7	1	8	1.60
11 月										
12 月										
計	2,033	3,337	2,302	5,639	2.77	88	138	50	188	2.14

※登山計画書（平成 19 年分）集計結果より

▼地点別登山者数　　※　地点別登山者数カウント調査（平成 20 年 7 月 21 日実施）結果より

- 入山は 4:00 から 5:30 頃に集中している。下山は 11:00 頃から徐々に増加し、15:00 から 16:00 頃に最も多い。
- 長官山付近は、6:30 から 9:00 頃に登山者（のぼり）、11:00 から 14:30 頃に下山者が多く通過する。9:00 から 11:00 頃に、長官山周辺で登山者と下山者のすれ違いが若干発生していると考えられる。
- 山頂下の 3m スリットは、7:00 頃からこの地点を通過する登山者が見られはじめ、10:00 頃にピークを迎える。一方下山者は、8:30 頃から見られはじめ、11:30 頃にピークを迎える。
- 3m スリットでは、10:00 頃をピークに断続的に登山者と下山者が混在している。その間、山頂の混雑、3m スリット前後の登山道上で頻繁にすれ違い・待機が発生していると考えられる。

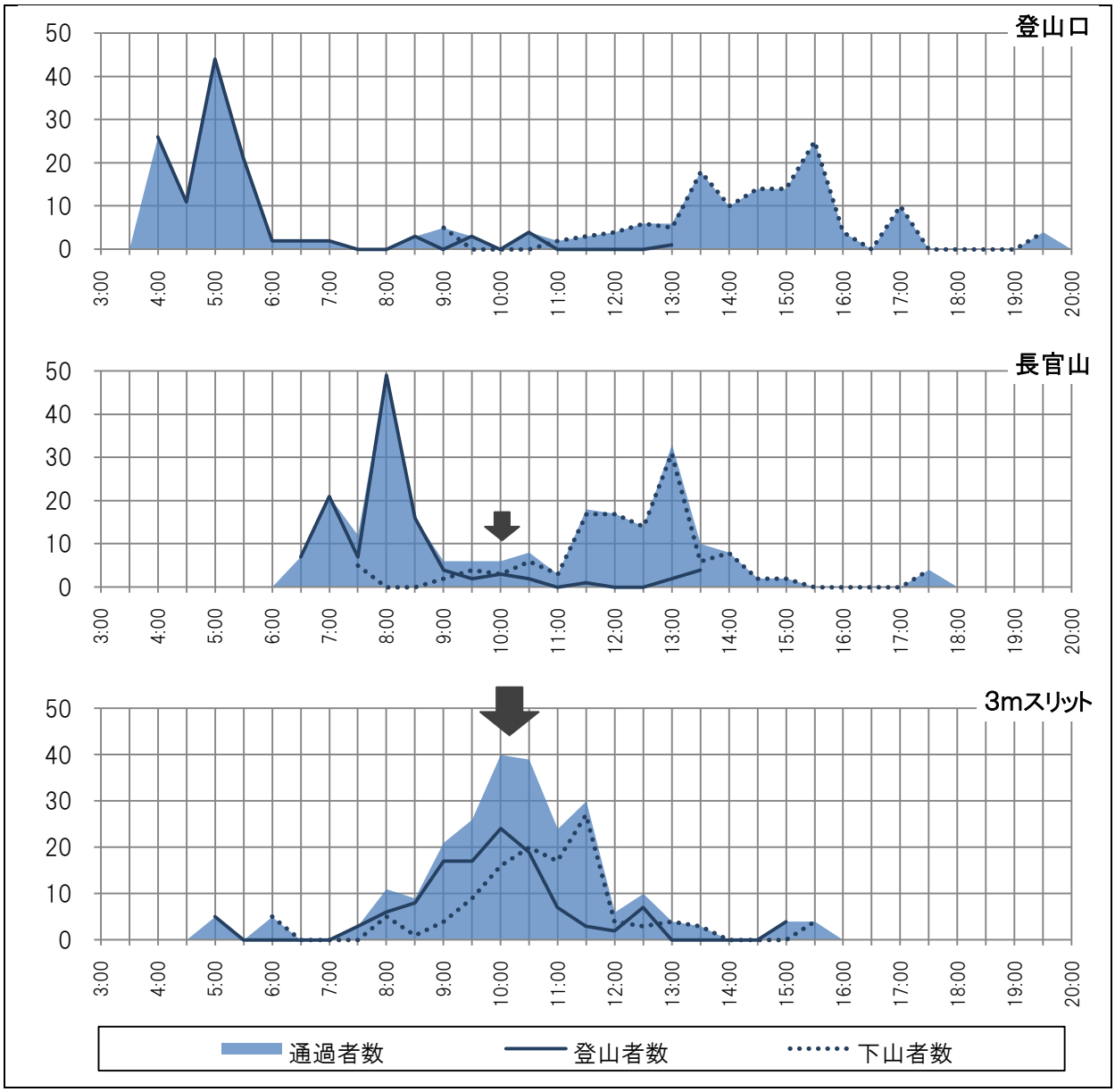

図　地点別登山者数の推移

登山道の混雑の状況

▼ツアー登山の状況　　※　平成 20 年入山カウンターデータ及び登山計画書（平成 20 年分）集計結果より

- 6 月中旬から 7 月初旬にかけてツアー登山が多い。
- 6 月はツアー登山者数、登山者数に占めるツアー登山者比率とも最も高い。
- ツアー登山で訪れる登山者は 1,200～1,500 人、全登山者の 10～15%と推定される。
- 少なくともツアー登山は 50 本以上行われ、1 ツアーあたりの平均人数は 17 人程度と推定される。

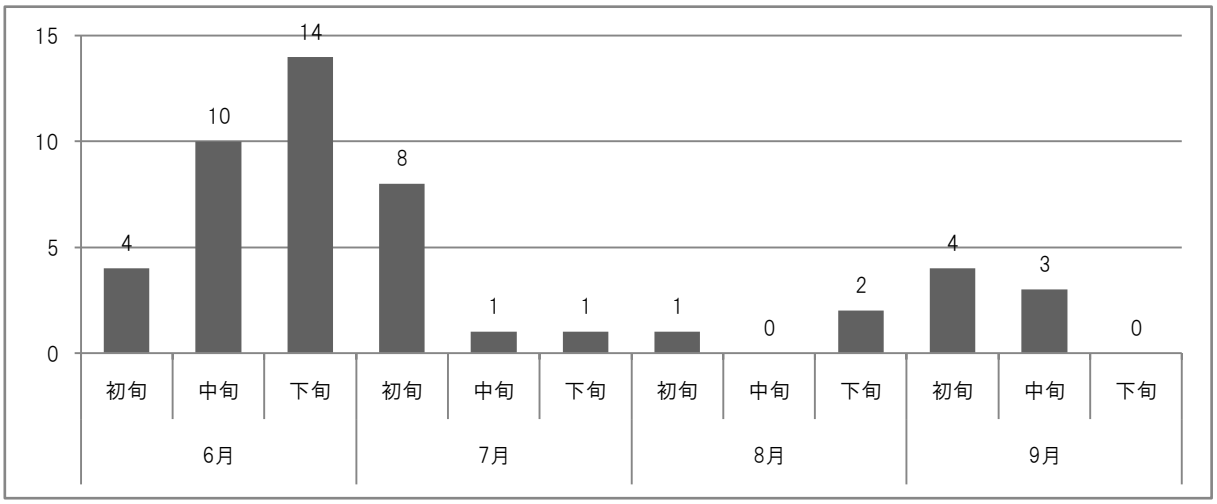

図　ツアー登山の数（鴛泊コース）（平成 20 年度）

※登山計画書（平成 20 年分）提出分

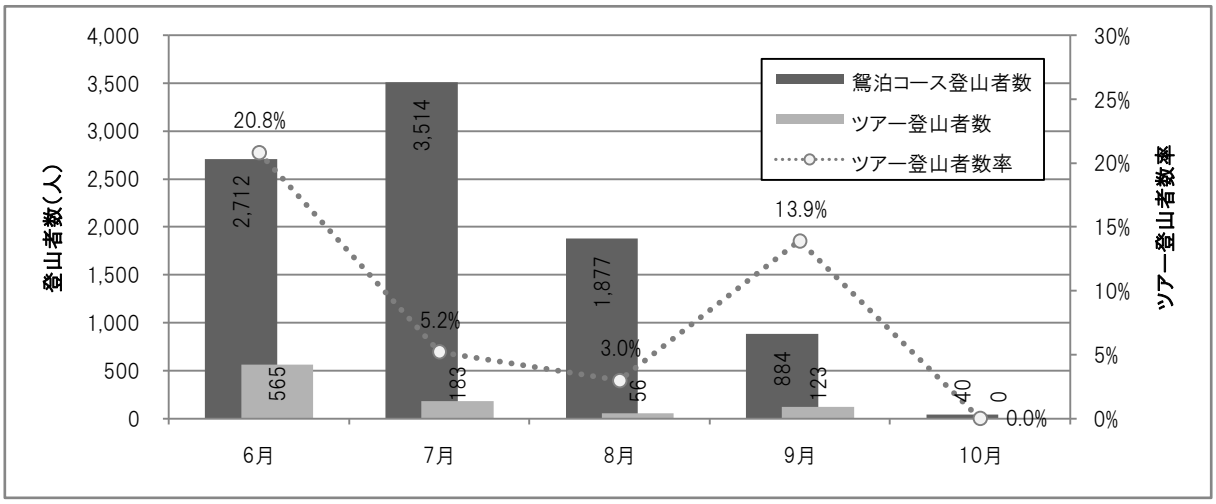

図　月別にみたツアー登山者数と登山者に占めるツアー登山者比率（鴛泊コース）（平成 20 年度）

※　月別ツアー登山者率＝ツアー登山の人数合計（登山計画書集計分のみ）÷登山者カウンター月別増加数

＜参考＞全国的なツアー登山に関する傾向

※「山のデータブック」（NPO 法人山の ECHO 編）及び旅行業ツアー登山協議会へのヒアリングより

- 旅行会社が扱うツアー登山への参加者数はここ数年ほぼ横ばいである。
- ツアー登山への参加者層は圧倒的に中高年層が多いが、30 代の参加者も増加傾向がみられるようである。
- 一時は下火になった「百名山ツアー」が勢いを盛り返しつつあるとのこと。これは団塊世代の定年後の新たな目標として登る人が増えたことによるのでは、との推測もある。

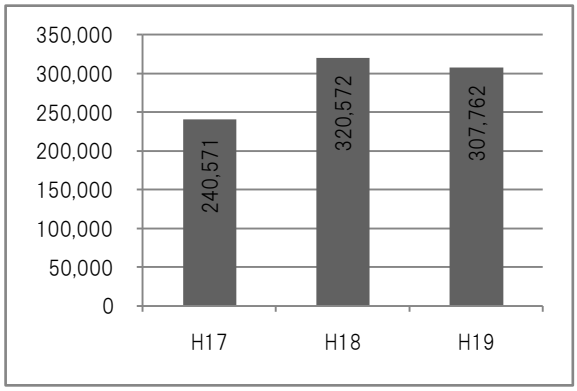

図　ツアー登山参加者数の推移

※H18 の増加は、旅行業ツアー登山協議会へ未入会の会社が入会したことが大きく影響

▼山岳遭難事故の状況

- 利尻山での遭難者の多くは中高年であり、全国的な山岳遭難発生の傾向と同様である。

表　利尻山での山岳遭難事故の状況（平成 12 年以降・夏山）

コース	年	月	性別	年齢	居住地	遭難場所	態様
鴛泊	平成 12 年	6 月	女性	46 歳	高知県	8合目旧水飲み場付近	道迷い
		7 月	男性	73 歳	栃木県	8～9合目付近	疲労
		8 月	男性	29 歳	東京都	4～5合目付近	疲労
	平成 13 年	6 月	女性	55 歳	千葉県	9合目上部	落石
		7 月	女性	61 歳	長崎県	5合目	疲労
			男性	61 歳	東京都	頂上直下付近（9合目より 200m 上部）	転倒
			男性	59 歳	千葉県	頂上直下付近	転倒
	平成 15 年	7 月	男性	51 歳	札幌市	標高 500m の豊漁沢川付近	道迷い
	平成 16 年	7 月	女性	51 歳	愛知県	6～7合目のガレ場	転倒
	平成 17 年	6 月	男性	59 歳	静岡県	5合目	転倒
	平成 18 年	7 月	男性	67 歳	栃木県	鴛泊、沓形コース分岐点付近	転倒
	平成 19 年	7 月	男性	68 歳	東京都	鴛泊コース頂上付近	突然倒れた
		8 月	男性	73 歳	東京都	鴛泊登山口～姫沼	不明
	平成 20 年	6 月	男性	62 歳	青森県	7合目付近	捻挫
沓形	平成 15 年	8 月	男性	不明	不明	6合目「五葉の坂」	疲労
	平成 16 年	6 月	男性	不明	不明	親不知子不知	身動きとれず
	平成 18 年	6 月	女性	37 歳	埼玉県	親不知子不知	滑落

※　利尻富士町提供データ（救助隊関係分）より

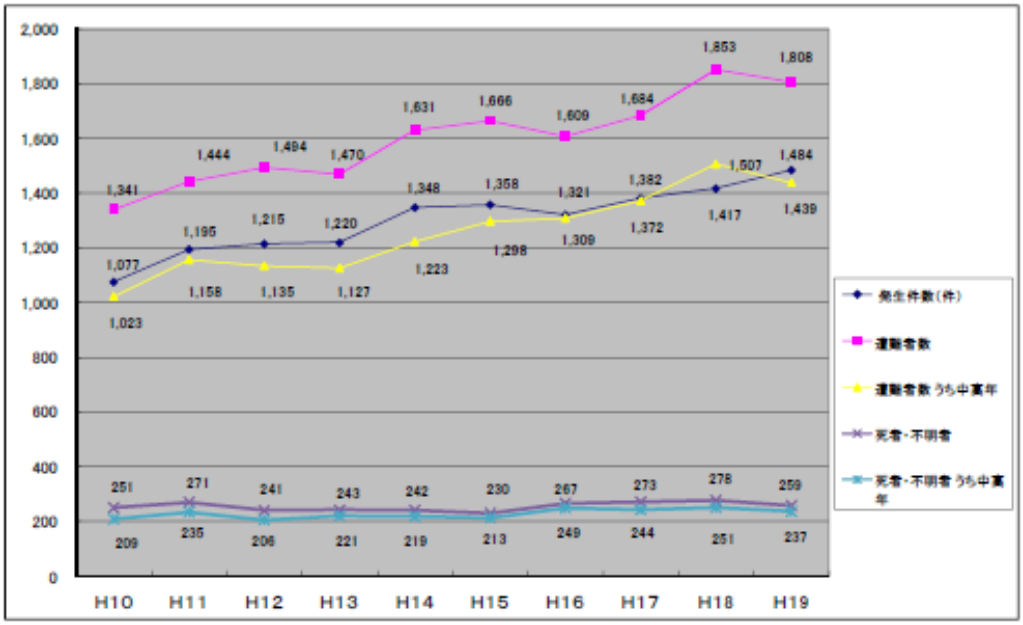

図　全国の山岳遭難発生状況

※　「平成 19 年中における山岳遭難の概況」（警察庁）より

３．他山岳地の状況

▼羊蹄山

- 平成 19 年の年間登山者数は 9,000 人弱。やや減少傾向にある。
- 7 月に登山者数が最も多い。
- 真狩コース、倶知安コースの順に入山者が多い。
- 人気のある倶知安コース、真狩コースでは、近年急速に登山道の浸食が進み、2m くらい掘れているところが何箇所か見られる。
- 山頂の避難小屋の監視員によると、最近軽装登山者が増えている。登山の心構えも不十分で、暗くなってから（18～19 時）に避難小屋に到着する客も少なくない（パンフ等で上り 4 時間と書いているものもあるがこれはハイペースの設定になっており、ゆっくり歩けば 6～7 時間かかる。そういうことを分かっていない人が増えている）。昨年は、遭難が立て続けにあった。
- 冬の利用も増えている。スノーボーダーが多くて 10 人程度で入っており、雪崩の危険性もある（まだ起こったことはない）。コンパス等をもっておらず、目印に木にピンクテープを巻いて登って、降りるときに回収していかないことが多く、景観上問題になっている。

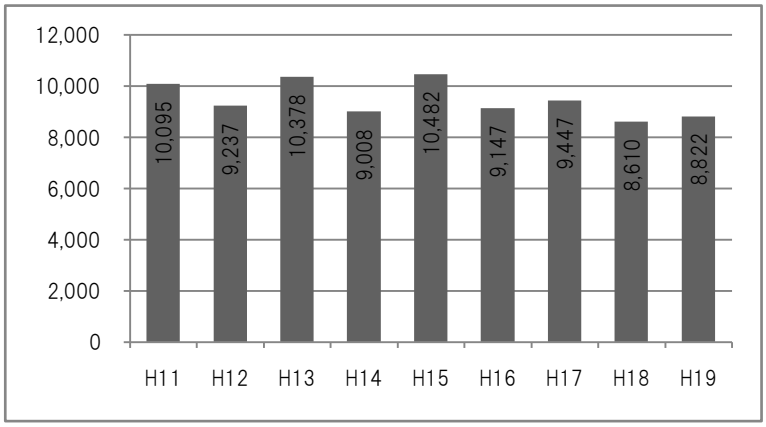

図　羊蹄山登山者数の推移（単位：人）

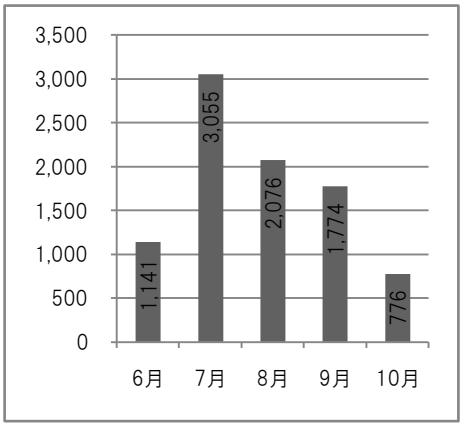

図　月別にみた羊蹄山登山者数
（単位：人）

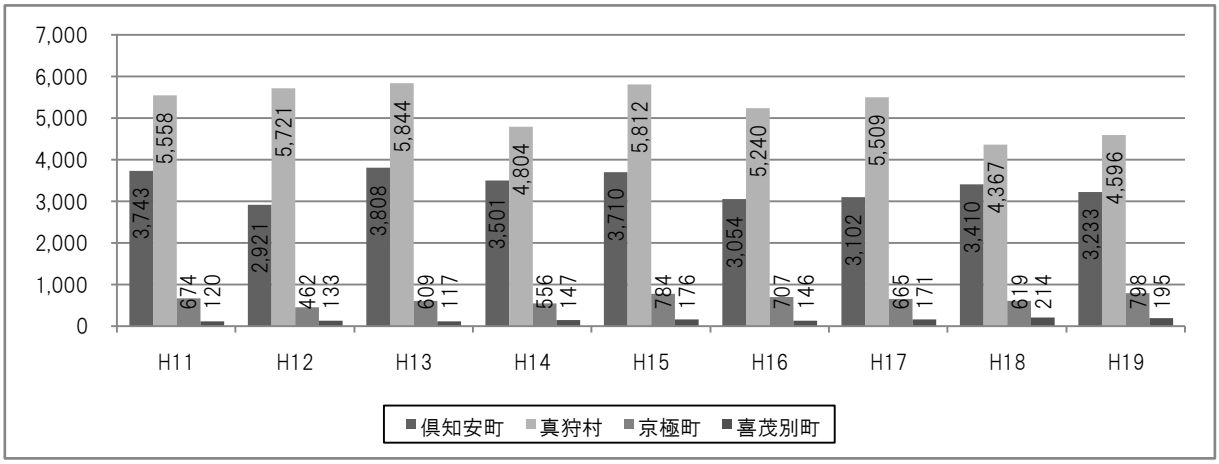

図　登山ルート別にみた羊蹄山登山者数の推移（単位：人）

▼羅臼岳

※知床国立公園利用適正化会議資料より

- 平成 19 年度の総入山者数は過去 4 年間で最も少なく 8,000 人以下。平成 18 年度から道道知床公園線の落石防止対策に伴い硫黄山登山口が閉鎖となっており、その規制に関する周知が進んだことによるものと推測されている。
- 知床連山岩尾別登山口付近には多くの自動車が利用できる駐車場が整備されておらず、利用者の多い季節には道路沿いに多数の路上駐車が列を作る。平成 19 年度は斜里町により、落石の危険のため駐車を禁止する標識が道路沿いに設置されたが、7 月中旬の連休期間中路肩駐車が急増し、シャトルバス、及び観光バスの運行に支障をきたし、警察が出動・対応する事態も発生した。7 月の連休期間以外では路肩駐車台数は殆ど 10 台以下。
- 登山道沿い、特に弥三吉水、銀冷水、羅臼平等の休憩ポイントでトイレ跡が目立ち、利用者からは、携帯トイレの回収ボックスの設置を望む声などがあった（平成 20 年より登山口に使用済み携帯トイレ回収ボックスが設置された）。
- 登山道の浸食や登山道脇の植生への立入り、ストックでの突き刺しによる裸地化等が確認されている。

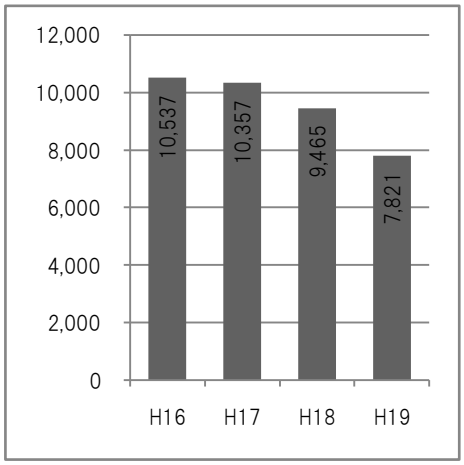

図　羅臼岳入山者数の推移（単位：人）

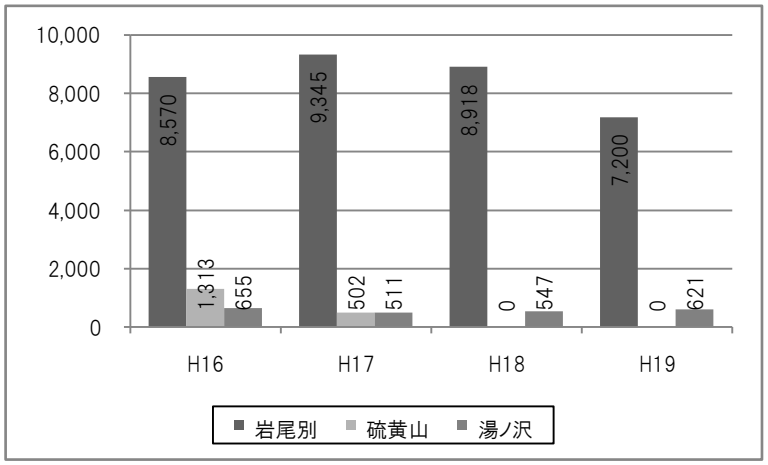

図　登山口別にみた羅臼岳入山者数の推移（単位：人）

▼屋久島主要山岳部

※「屋久島山岳部の利用動向把握調査（カウンター調査）結果」（九州地方環境事務所）より

- 主要山岳部への入山者は 5 月（ＧＷ）と 8～9 月（夏休み）に集中。
- 1 年間で最も入山が集中したのは、縄文杉方面入山：1,013 人｛5/4（金）｝、宮之浦岳方面入山：436 人｛5/26（土）｝。5/4（金）の縄文杉方面への入山は、7 時台～8 時台に集中。
- 入島者数に対する入山者数の比率が 20%以上
- 9 月以降も入山者が多いのは、団体ツアーが増えるとともに、台風の接近がないなど天候の良い日が続いたことが主な理由としている。
- 主要山岳部の利用動向は気象による直接的、また間接的（各交通機関の欠航等）影響を受けやすい。平成 19 年は、①特に利用動向の集中した 5 月（ＧＷ）と 8～9 月（夏休み）にほとんど警報が発令されなかったこと、②年間を通して各交通機関の欠航便が少なかったことから、年間を通じて多くの入山者があった。

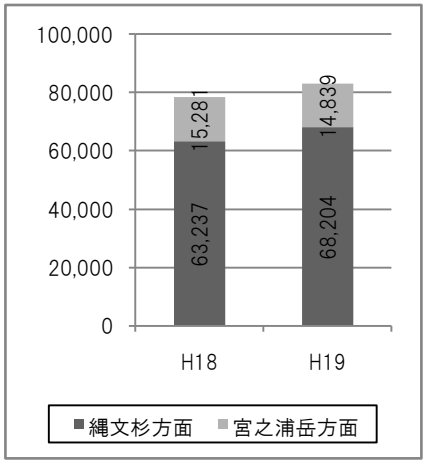

図　屋久島山岳部入山者数（単位：人）

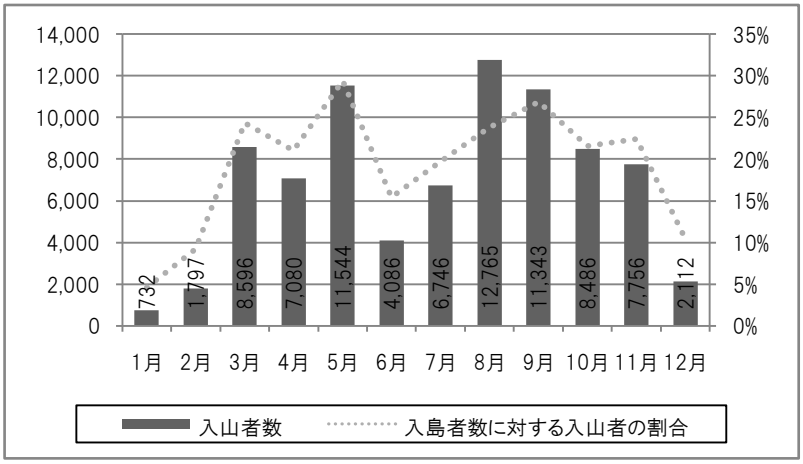

図　月別にみた屋久島山岳部入山者数（単位：人）